

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日  
定時株主総会 毎年6月  
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社  
(郵便物送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
(証券代行事務センター)  
郵便番号 168-0063  
(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)  
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店  
ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各  
支店で行っております。  
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
期末配当 3月31日  
中間配当を実施するときは 9月30日  
公告方法 電子公告の方法により行います。  
ただし、電子公告によることができない事故その他  
のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞  
に掲載します。  
公告掲載URL <http://www.tokyorope.co.jp/>

## 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社等に  
口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管  
理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

## 上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律第23号)  
により、平成21年1月以降にお支払いする配当金について株主様あてに  
配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」を送付することが  
義務づけられました。

配当金額収証にてお受取りの株主様は年末または翌年初に「支払通知  
書」を送付いたしますのでご覧ください。口座振込を指定されている株  
主様は配当金支払いの際送付している「配当金計算書」が「支払通知書」  
となります。なお、両書類は確定申告を行う際その添付書類としてご使  
用いただくことができます。

## 株式概要 (平成21年3月31日現在)

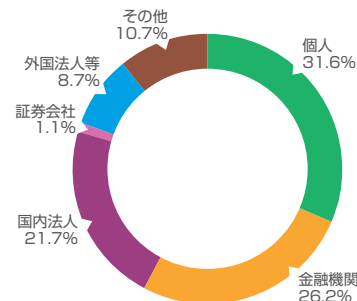
発行済株式の総数 162,682,420株  
発行可能株式総数 400,000,000株  
株主数 15,226名

## 大株主 (平成21年3月31日現在)

株主名	持株数		出資比率
	千株	%	
新日本製鐵(株)	11,504	7.87	
日本スタートラスト信託銀行(株)(信託口)	7,610	5.21	
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4G)	6,541	4.48	
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	5,988	4.10	
(株)ハイレックスコーポレーション	4,000	2.74	
東京ロープ共栄会	3,630	2.48	
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	3,065	2.10	
横浜ゴム(株)	2,671	1.83	
シービーエイチケイ コリア セキュリティーズ デポジットリー	2,591	1.77	
朝日生命保険(相)	2,206	1.51	

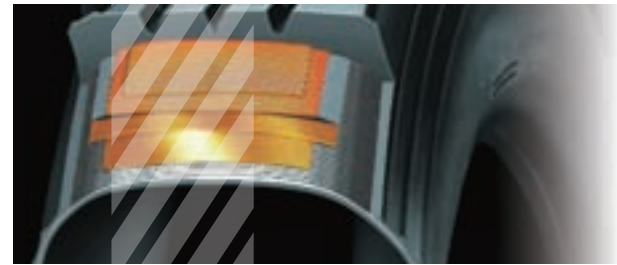
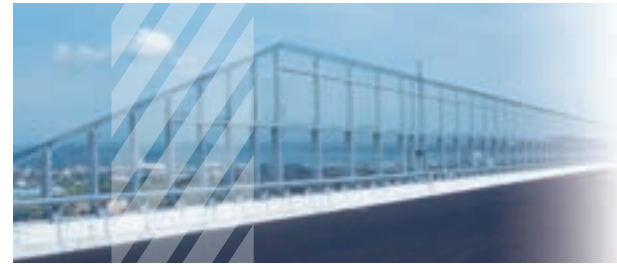
(注1) 出資比率は、自己株式(16,561,889株)を除いて計算しております。  
(注2) 大株主10名は自己株式(16,561,889株)を除いて表示しております。

## 株式の分布状況 (平成21年3月31日現在)



## 東京製綱株式会社

〒103-8306 東京都中央区日本橋3-6-2(日本橋フロント)  
TEL:03-6366-7777(代) FAX:03-3278-6800



# 株主の皆さまへ

## 第210期

# 報告書

平成20年4月1日から平成21年3月31日

## INDEX

トップメッセージ	01
東京製綱のアウトライン	04
進捗レポート「ステップアップ8・7」	05
トピックス	06
財務ハイライト	07
財務情報	08
アンケート結果ご報告	09
会社概要／グループ会社	10



わが国実業界の祖渋沢栄一は幾多の企業設立に関わりましたが、当社もその一つであり、当社設立委員であるほか、明治32年7月から明治42年7月まで取締役会長に就任しておりました。この書は「甲子八月 東京製綱株式会社囀 青淵渋沢栄一」の署名があり、翁84才（1924年・大正13年）、当社では、後の昭和44年まで主力工場であった川崎工場を開業した頃に当社に贈られた書です。

## ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より当社事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

ここに第210期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）における事業の取り組みおよび成果をご報告し、成長戦略と今後の展開についてご説明させていただきます。

平成21年6月  
取締役社長

田中重人

## 厳しい事業環境を乗り越えて エクセレントな企業グループを目指すために。

かつて世界が経験したことのない、先の見えない不況の中で当期の連結業績については減益を余儀なくされました。

ご承知の通り、昨年来の世界的な金融不安による混迷は、各国の経済に大幅な景気後退をもたらしております。その波及におけるスピードの速さと、全世界同時かつ全産業におよぶ影響という点で、かつて世界が経験したことのない、先の見えない不況の様相を呈しています。現在、各国の協調による経済対策が行われているものの、景気回復にはしばらくの時間を要するものと思われまます。

当期のわが国では、海外需要の減衰による生産調整、そして円高の進行が製造業にダメージを与え、雇用不安と消費の減退に見舞われました。100年に一度とも言われているこの不況により、当社事業もまた影響を逃れ得ず、特に下半期以降は各事業とも急激な需要の落ち込みを受けております。

その結果、当期の連結業績については、販売面で製品出荷数量が前年同期に比べ減少したものの、製品価格改定の実施により、79,759百万円と前期比1.7%の増収となりましたが、利益面では出荷数量の

減少による影響に加え、原燃料および資材価格が製品価格改定を上回る水準で推移したことや、不採算工事物件が発生したこと等の影響を受け、連結営業利益が3,191百万円（前期比21.4%減）、連結経常利益が2,344百万円（前期比29.8%減）となりました。

これに投資有価証券評価損や土地売却に伴う減損処理等を計上した結果、連結当期純損失176百万円を計上するにいたりました。

幅広い製品ポートフォリオと、「安全」「安心」の提供で築き上げた厚い信頼をベースに、安定性の高い経営を行っております。

しかしながら当社の事業内容は、様々な産業を支えるワイヤロープ関連、電力通信分野をはじめ多岐にわたって使用される鋼線関連、タイヤおよび高圧ホースの補強材や太陽電池用シリコンの切断に用いられるスチールコード関連など、非常に幅広い製品ポートフォリオによって構成されています。また、当社の事業領域は、主に国内における各産業の基礎資材や構造物・建築物の主要部材として社会を支えている点で、ほぼ内需型と言えるものであり、「安全」「安心」の提供によって築き上げた厚い信頼をベースに、安定性の高い経営を行っております。こうしたことが、今般の大型不況においても当社が受けたダメージが、今のところ製造業としては比較的軽度にとどまっている理由であると思われまます。

当期の状況を振り返ると、3か年中期経営計画「ステップアップ8・7」の中間年度として、多くの施策に集中的に取り組んでいった年であると言えます。具体的には、ソーワイヤの増産、鋼索鋼線の設備増強、環境建材事業における施工能力向上などを実行してまいりました。海外プロジェクトとしては、東京製綱（常州）有限公司が本格稼働によりスチールコード月産1,500tを達成し、東京製綱ベトナム有限責任会社もエレベータ用ワイヤロープの本格生産を開始いたしました。

一方、新製品については、鋼索分野で半被覆ロープ、新トヨロック、ハイクロスロープを開発した他、ソーワイヤ関連で高強度化・細径化が進められました。環境建材分野では、新製品・新工法の開発をほぼ終了し、市場への投入に注力しております。

また、鋼線鋼索事業部には、全員参加型経営・最小生産単位での効率性追求などを旨とする「アメーバ経営」を導入し、企業風土の改革を進めております。

中期経営計画を通じて3つの成長・拡大テーマを追求し将来の発展に向けた基盤作りを進めていく考えです。

3か年中期経営計画「ステップアップ8・7」では、「成長市場の捕捉」「差別化商品・工法の投入」「ビジネスモデルの変換」の3つのテーマに基づく成長・拡大を目指しております。その取り組みと同時に、持続的成長に向けた収益構造の改善を図り、計画最終年度となる来期（平成22年3月期）における連結売上高800億円以上・連結経常利益率7%（56億円以上）の達成を当初の目標としておりました。このうち売上高目標については、当期において、ほぼ前倒し達成を果たしましたが、経常利益率については、景気後退による事業環境の悪化が当面続く見通しであることから、残念ながら未達を予想しております。

しかし、ここに掲げた3つの成長・拡大テーマについては、厳しい事業環境下においても引き続き追求し、将来の発展に向けた基盤作りを進めていかなくはなりません。「成長市場の捕捉」としては中国・東南アジア市場をターゲットとしたグローバル展開を、「差別化商品・工法の投入」としては高付加価値製品や革新的プロセス技術の創出・市場投入を、そして「ビジネスモデルの変換」としては独自技術をベースにした周辺領域・応用領域へのビジネスチャンス拡大を、当面の成長戦略として推進してまいります。

厳しい需要減退期であるからこそ営業活動を積極化し顧客満足の向上に全力を尽くしてまいります。

先に申し上げました通り、景気後退による事業環境の悪化は当面続いていくものと予測しております。来期については企業収益の低迷とともに生産調整および投資抑制傾向がさらに進行し、当期以上に深刻

な需要減に見舞われる可能性もあります。

当社は、こうした厳しい需要減退期であるからこそ積極的な営業活動が求められるとの考えに基づき、来期においては、当社の製品・サービスによってお客様が得られるメリットを明確に認識し、顧客満足の上上に全力を尽くしてまいります。そのためには、営業のみならず製造、技術、管理の各部門が、顧客満足の上上という同一方向にベクトルを合わせて活動していく必要があります。一方、生産量の縮小による固定費面の上昇に対しては、徹底した製造コストの削減を実施することでカバーしてまいります。

事業部門別の具体的な施策として、鋼線鋼索事業では、アメーバ経営による製造現場の全員参加効果を発揮しつつ、品質管理の徹底や納期短縮といった顧客満足の上上を優先させてまいります。また、スチールコード事業では、タイヤコードの需要減に対応したコストダウンと商品構成面での優位性確保、ソーワイヤの中国市場に向けた組織的な展開などに注力していく考えです。そして環境建材事業では、競争激化の中で生き延びるべく、営業力強化と技術的優位性の上上を推進してまいります。

来期の連結業績の見通しについては、世界経済の本格的回復にはな

お時間を要するものと推察され、当面厳しい状況で推移するものと推察されます。当社グループでは事業分野毎に、需要動向に対応した収益改善施策を迅速且つ確実に実行し、業績の維持・改善に努めることにより連結売上高760億円、連結経常利益22億円、連結当期純利益15億円を見込んでおります。

**将来の発展に夢と自信を抱いて、  
厳しい状況を前向きに打開し  
エクセレントな企業グループを目指します。**

当社は、株主の皆様に対する利益還元の方針として、連結業績に依じた利益の分配を基本としつつ、安定的な配当原資の確保と中長期的な事業環境の変化への備えに必要な内部留保を行っていき考えであります。前述の通り、当期業績につきましては連結当期純損失の計上という結果となりましたが、株主の皆様への安定的な配当の実現にも配慮し、今回は前期と同額の1株当たり2円50銭の期末配当を実施させていただきました。

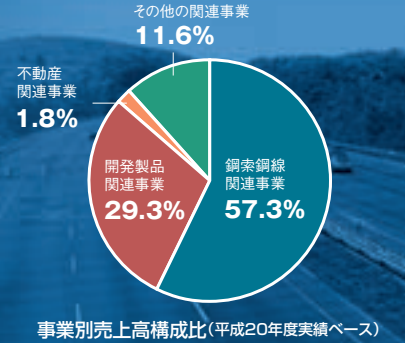
当社が平成16年に策定した長期ビジョンでは、「エクセレントな企業グループとして時代の変化を見通し、技術、ビジネスチャンス先取りしてグローバルな競争に挑戦できる力を身につけたい」と述べております。そして今、まさにグローバルな競争にさらされ、変化に対応し、変化をリードしなければ生き残れない状況が出現いたしました。厳しい事業環境は、見方を変えればチャンスでもあります。当社は、将来の発展に夢と自信を抱いて、この状況を前向きに打開していく所存であります。

株主の皆様におかれましては、当社の長期的な成長力と将来の企業価値にご期待いただき、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 東京製綱のアウトライン

### 東京製綱のものづくりは、 産業界の発展と暮らしの豊かさを支えます。

当社は、1887年（明治20年）に国内初のロープメーカーとして発足して以来、現在に至るまで吊橋用、エレベータ用等、ワイヤロープのトップメーカーとして、皆様の暮らしと産業の基盤整備に貢献しております。また、ワイヤロープ製造技術を基軸としてタイヤ用スチールコード、落石防護施設、さらにはワイヤソー等の産業機械に至るまで、様々な分野への派生・応用製品を社会に提供し続けております。当社の事業内容、ならびに第210期（平成21年3月期）の概況につき、ご説明いたします。



#### 鋼索鋼線関連事業

当事業は、ワイヤロープ類の製造販売で国内業界トップシェアを誇る鋼索部門をはじめ、様々な用途に合わせたワイヤ類の製造販売を行う鋼線部門、タイヤ用スチールコード、太陽電池用シリコン切断用ソーワイヤ等の製造販売を行うスチールコード部門によって構成されております。

売上高 (前年同期比 8.5%増)	<b>45,709</b> 百万円
営業利益 (前年同期比 0.2%増)	<b>1,302</b> 百万円

当期における当事業の概況は、製品の出荷数量が減少したことによる減収要因を中国子会社のタイヤ用スチールコードの出荷増やソーワイヤの拡販、線材等の材料価格の上昇に伴う製品価格改定等でカバーしたことにより売上高は増加いたしました。営業利益は前期と比してほぼ横ばいとなりました。

	H18年度	H19年度	H20年度
売上高	38,933	42,136	45,709
営業利益	1,839	1,300	1,302

#### 開発製品関連事業

当事業は、落石や雪崩等の災害を防止する安全施設や高速道路等の騒音を防止するアクリル板遮音壁等の製造、設計・施工、販売を行う環境建材部門、太陽電池用シリコンスライス用ワイヤソーをはじめとする産業機械の製造販売や超硬治工具、金属繊維の製造販売を行う産業機械部門の他、橋梁などの鋼構造物の設計・施工および橋梁用ワイヤの製造販売等によって構成されております。

売上高 (前年同期比 8.4%減)	<b>23,396</b> 百万円
営業利益 (前年同期比 63.7%増)	<b>567</b> 百万円

当期における当事業の概況は、ワイヤソーの売上が順調に伸びたものの、公共工事縮減により環境建材部門が低調に推移したことにより売上高は減少いたしました。営業利益につきましては、ワイヤソーの売上増加という増収要因があったものの、その他の売上が低調であったことに加え、不採算工物件が発生したこと等の影響を受け大きく減少いたしました。

	H18年度	H19年度	H20年度
売上高	20,080	25,544	23,396
営業利益	888	1,560	567

#### 不動産関連事業

当事業では、遊休不動産の効率的活用により店舗施設などの不動産賃貸を行っております。

売上高 (前年同期比 1.1%増)	<b>1,414</b> 百万円
営業利益 (前年同期比 0.6%増)	<b>816</b> 百万円

#### その他の関連事業

当事業は、水産・海運・造船向け繊維ロープの製造販売の他、石油・ガス製品の仕入販売によって構成されております。

売上高 (前年同期比 1.3%減)	<b>9,239</b> 百万円
営業利益 (前年同期比 29.9%増)	<b>504</b> 百万円

当期における当事業の概況は、大型船舶用ホーサーの売上が順調に伸びた一方、景気の低迷による顧客事業者の操業度低下の影響を受けた石油・ガス類の売上高が減少した結果、売上高は前期とほぼ横ばいとなったものの、営業利益は増加いたしました。



### 市場での一層のプレゼンス向上に向けた高付加価値製品の市場投入や 独自技術に基づくビジネスモデルの変換

「ステップアップ8・7」では、持続的成長を遂げるための当面の成長戦略の大きな柱のひとつとして、製品の付加価値化や独自技術に基づくビジネスモデルの変換を掲げておりますが、その一例についてご紹介いたします。

#### ■ ワイヤロープ寿命管理コントローラ「REXS」

クレーン用ワイヤロープの交換は使用回数や使用期間を管理する方法により行われておりますが、この方法ではクレーンの稼働率や吊り荷重の変化といったワイヤロープの寿命に影響する要素が加味されないことから、さらにこれらの影響を考慮してより安全と思われる周期にて交換が行われるのが一般的であります。当社が今般開発した「REXS(Rope EXchange Support system)」は、使用ワイヤロープや設備の諸条件から使用回数を算定した後、クレーンに通常敷設されている荷重計を活用して実際の稼働状況のデータを入力し、都度補正計算を行い残使用回数を算定する装置です。既に市場に投入しているワイヤロープの状態を常時監視するシステムである「SEMSOR®」と、今回の「REXS」とにより、ロープメンテナンス分野においても最先端の技術を提供いたします。

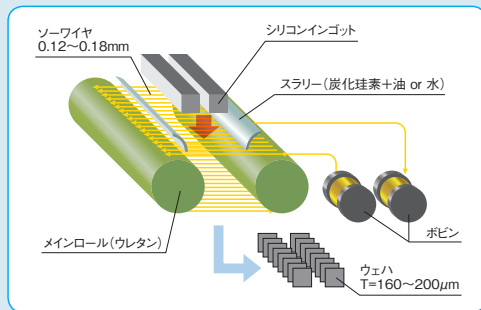


▲REXS

#### ■ 太陽電池用シリコンスライス用ソーワイヤ

ソーワイヤは、太陽電池用シリコンスライス装置であるワイヤソーに用いられます。ワイヤソーではシリコンインゴットを数時間かけて厚さ200μm程に切断しますが、ソーワイヤは切断面に砥粒（スラリー）を運搬する役割を担っており、時速40km程のスピードでシリコンインゴットに接触しながらポピンからポピンへ巻取られていきます。

このような用途からソーワイヤには高強度、極細(直径0.12~0.18mm)、長尺(1ポピン当たり数百km)という高度な製品特性が求められております。当社ではタイヤ用スチールコードの製造技術をベースにこのような要求特性に対応した製品供給を行っております。



▲ソーワイヤ

#### ■ 高強度・軽量・柔軟性を追求した「ハイクロスロープ」

従来品と比べて約30%~40%の高強度を実現した玉掛用交差ワイヤロープ「ハイクロスロープ」は、高強度によりダウンサイジングが可能となり、軽くて柔軟性のある使いやすい次世代の玉掛ワイヤロープです。



▲ハイクロスロープ

## トピックス

### NEWS

- 2008.10 名古屋で開催された「建築技術フェア2008in中部」に出展
- 2009. 1 東京製綱本社エントランスに「製品ショールーム」を新設
- 2009. 2 ホームページに新コンテンツを掲載
- 2009. 3 ワイヤロープ寿命管理コントローラ「REXS」発売
- 2009. 4 (株)東綱機械製作所の吸収合併

close up

#### 1 東京製綱本社エントランスに「製品ショールーム」を新設

当社では昨年7月の本社事務所移転を機に従来の製品展示を一新し、エントランスに製品ショールームを新設いたしました。

実際の製品を展示することで、当社製品の用途や製品のスケールがひと目で理解できるとお取引先様各位にご好評いただいております。



#### 2 (株)東綱機械製作所の吸収合併

昨今の世界同時不況に対する各国の経済対策が“グリーン・ニューディール”に代表されるように環境関連投資に重点が置かれており、ワイヤソー・ソーワイヤ等の太陽光発電関連事業については今後も成長が見込まれる事業分野であると考えております。

当事業について、経営資源を集中・重点化し最大限のシナジーを発揮させるため、平成21年4月1日付でワイヤソーの製造販売を行っている(株)東綱機械製作所を吸収合併いたしました。

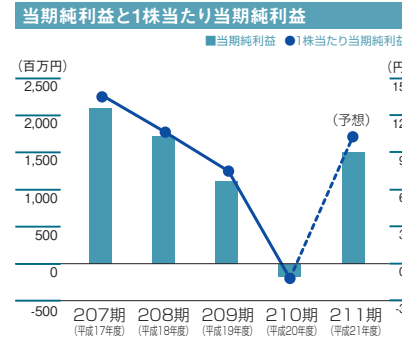
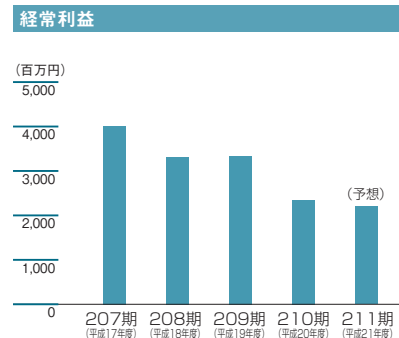
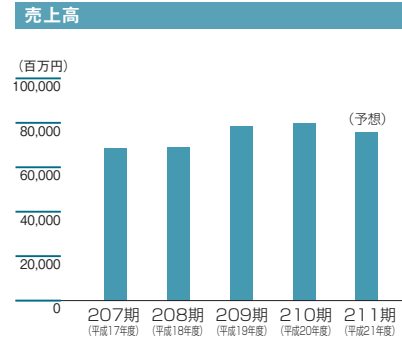
当期の連結業績は、

売上高 **79,759** 百万円  
(前年同期比 1.7%増)

経常利益 **2,344** 百万円  
(前年同期比 29.8%減)

当期純損失 **176** 百万円  
(前年同期比 — %減)

となりました。



連結業績推移

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度(予想)
売上高 (百万円)	68,428	69,193	78,444	79,759	76,000
営業利益 (百万円)	4,402	3,881	4,061	3,191	3,000
経常利益 (百万円)	4,012	3,314	3,338	2,344	2,200
当期純利益(△は純損失) (百万円)	2,139	1,753	1,131	△176	1,500
総資産 (百万円)	105,746	103,851	108,303	104,877	—
1株当たり純資産 (円)	286.38	294.35	287.55	271.66	—
1株当たり当期純利益(△は純損失) (円)	13.75	11.37	7.49	△1.19	10.27
有利子負債 (百万円)	23,393	19,652	22,461	23,625	—

連結貸借対照表

単位:百万円

区 分	当期 平成21年3月31日	前期 平成20年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	39,771	38,707
固定資産	65,068	69,595
有形固定資産	55,799	57,008
無形固定資産	793	904
投資その他の資産	8,475	11,682
繰延資産	38	0
<b>資産合計</b>	<b>104,877</b>	<b>108,303</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	33,886	36,202
固定負債	28,865	26,125
<b>負債合計</b>	<b>62,751</b>	<b>62,327</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	28,978	30,271
資本金	15,074	15,074
資本剰余金	8,567	8,566
利益剰余金	8,424	8,948
自己株式	△ 3,087	△ 2,317
評価・換算差額等	10,715	13,042
其他有価証券評価差額金	△ 444	744
土地再評価差額金	11,294	11,483
為替換算調整勘定	△ 133	814
少数株主持分	2,431	2,663
<b>純資産合計</b>	<b>42,125</b>	<b>45,976</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>104,877</b>	<b>108,303</b>

連結損益計算書

単位:百万円

区 分	当期 平成20年4月1日~ 平成21年3月31日	前期 平成19年4月1日~ 平成20年3月31日
売上高	79,759	78,444
売上原価	66,633	64,491
売上総利益	13,126	13,953
販売費及び一般管理費	9,934	9,892
営業利益	3,191	4,061
営業外収益	544	545
営業外費用	1,391	1,268
経常利益	2,344	3,338
特別利益	73	385
特別損失	1,189	907
税金等調整前当期純利益	1,228	2,816
法人税等	1,510	1,948
少数株主損失	105	263
<b>当期純利益又は当期純損失(△)</b>	<b>△ 176</b>	<b>1,131</b>

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

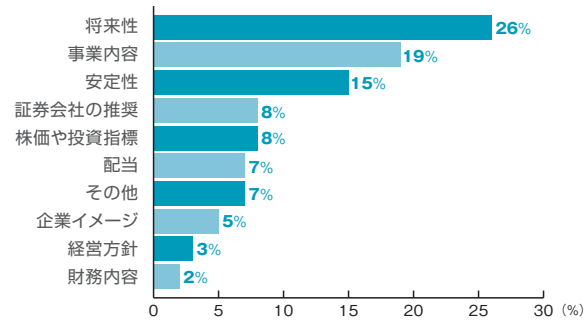
区 分	当期 平成20年4月1日~ 平成21年3月31日	前期 平成19年4月1日~ 平成20年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,669	4,314
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,698	△ 5,417
財務活動によるキャッシュ・フロー	53	1,934
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 176	8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 151	839
現金及び現金同等物の期首残高	1,891	1,051
連結範囲の変更に伴う増減	16	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,756	1,891

## アンケート結果について

第210期中間報告書に同封させていただきましたアンケートに、1,612名の株主の皆様からご回答をいただきました。お忙しい中、ご協力いただき、誠にありがとうございました。一部ではありますが、アンケート結果を掲載させていただきます。

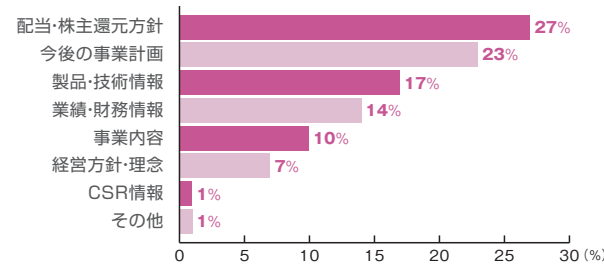
### 1 当社株式購入理由(複数回答)

当社の将来性・安定性・事業内容が  
主要な購入理由であることがわかりました。



### 2 当社についてもっと知りたい情報(複数回答)

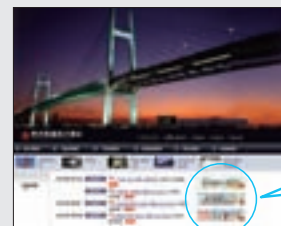
「配当・株主還元方針」が最も回答が多く、次いで  
「今後の事業計画」や「製品・技術情報」となりました。



## 中間報告書のリニューアルについて

第210期中間報告書のリニューアルについて、お褒めの言葉やご要望など様々なご意見をいただきました。今回のアンケートを通じて、株主の皆様が当社の将来への施策に関心をお持ちであると、改めて認識することができました。今後とも株主の皆様の声を参考に、ご期待に添えるような報告書の作成を行ってまいります。

また報告書のリニューアルとともに、当社をよりご理解いただけるようホームページの充実も行いましたので、ご紹介させていただきます。



ホームページのご紹介  
<http://www.tokyoropeco.jp/>

新しいコンテンツ

会社情報や投資家情報とともに、ロープの作り方や当社の事業内容をご理解いただけるよう、新たに「東京製綱のヒミツ」、「FIVEレンジャー」といったコンテンツの掲載を開始しました。ぜひご覧ください。

## 会社概要 (平成21年3月31日現在)

会社名 東京製綱株式会社  
本社所在地 〒103-8306 東京都中央区日本橋3-6-2 (日本橋フロント)  
平成20年7月に本社所在地が移転により上記の通りとなりました。  
設立 明治20年(1887年)4月1日  
資本金の額 15,074,167,611円  
従業員数 997名(連結従業員数2,015名)

## 役員 (平成21年6月26日現在)

取締役社長	田中重人	
専務取締役	猪瀬迪夫	社長補佐・コーポレート統括本部長
常務取締役	蔵重新次	技術開発本部長兼新事業推進本部長
常務取締役	萩原良仁	エンジニアリング事業部長
常務取締役	村田秀樹	鋼索鋼線事業部長
常務取締役	岡庭憲一	スチールコード事業部長兼技術開発本部長 東京製綱(常州)有限公司董事長
取締役	佐藤和規	コーポレート統括本部総務部長
取締役	堀本国男	コーポレート統括本部経営企画室長兼 購買物流部長・経理部管掌
監査役(常勤)	平木峰生	
監査役	大喜多正巳	
監査役	内藤秀彦	
監査役	根本英一	

## グループ会社 (平成21年6月26日現在)

### 国内関係会社

赤穂ロープ(株)(兵庫県) ワイヤロープ、鋼より線・ワイヤの製造  
(株)新洋(東京都) 極細鋼索の加工及び販売  
(株)東綱ワイヤロープ東日本(東京都) 鋼索・鋼線・金具販売、加工  
(株)東綱ワイヤロープ西日本(大阪府) 鋼索・鋼線・金具販売、加工、機械器具販売  
北海道トーコー(株)(北海道) 鋼索・鋼線・建設資材の販売、土木建設工事  
東綱橋梁(株)(栃木県) 橋梁の設計・施工  
日本特殊合金(株)(愛知県) 超硬工具素材、超硬精密金型、丸鋸用超硬チップ、ダイスの製造販売

トーコーテクノ(株)(東京都) 法面用落石防護施設工事、道路安全施設工事、橋梁上部工及びダム施設工事  
(株)長崎機器製作所(長崎県) 工業用自動計量機・自動包装機の製造及び販売  
東京製綱繊維ロープ(株)(愛知県) 繊維索網の製造及び販売  
東綱商事(株)(東京都) 石油類・高圧ガスの販売、保険代理業  
東京製綱海外事業投資(株)(東京都) 海外事業投資業

他10社

### 海外関係会社

東京製綱(常州)有限公司(中華人民共和国)  
東京製綱ベトナム有限責任会社(ベトナム)  
江蘇双友東綱金属製品有限公司(中華人民共和国)  
他2社

## 事業所

■ 本社	
■ 支店・営業所	鋼索鋼線事業部 大阪支店 エンジニアリング事業部 大阪支店 名古屋支店 九州支店 札幌支店 仙台支店 長野営業所 新潟営業所 広島営業所 盛岡営業所
■ エンジニアリングセンター	東日本エンジニアリングセンター 関西エンジニアリングセンター 北九州エンジニアリングセンター
■ 工場	土浦工場 堺工場 北上工場 和歌山分工場 北上機械製作所
■ 研究所	
■ 海外	上海駐在員事務所(中華人民共和国) カザフスタン駐在員事務所(カザフスタン共和国)